

徳島県

埋蔵文化財センター年報

Vol. 5 1993年度

1994

財団法人 徳島県埋蔵文化財センター



矢野遺跡全景（北より）



矢野遺跡遺構検出状況



矢野遺跡出土朱付着土器

## はじめに

本書は平成5年度に徳島県埋蔵文化財センターが実施した事業の概要をまとめたものであります。

平成5年度は四国縦貫自動車道関連埋蔵文化財発掘調査（脇～美馬間）に本格的に着手するとともに、徳島～脇間の整理業務も順調に進めることができました。

一般国道192号徳島南環状線埋蔵文化財発掘調査では、前年度に引き続き、矢野遺跡の面的な調査を実施したところ、銅鐸を埋納した集落構造を明らかにすることができたとともに、集落の性格を検討する上で貴重な成果が得られました。当該事業については、今年度から発掘調査と並行して整理業務にも着手しております。

また、自主事業としての研究紀要の刊行も第2号の継続により、研究面において軌道に乗せることができたものと考えております。今後、研究成果のさらなる蓄積を図り、平成7年度に開設する徳島県埋蔵文化財総合施設を有効に機能させていく所存であります。

本書の刊行にあたり、関係者各位並びに関係機関に御礼申し上げますとともに、今後とも一層の御指導と御協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成6年6月

財団法人 徳島県埋蔵文化財センター

理事長 坂本松雄

## 目 次

I	財団法人 徳島県埋蔵文化財センターの概要	3
II	平成5年度事業概要	5
III	事業報告	7
	四国縦貫自動車道関連発掘調査	
	原遺跡(Ⅱ)	10
	試掘調査	12
	原遺跡(Ⅰ)	
	原遺跡(Ⅱ)	
	鶴射遺跡	
	佐城遺跡(Ⅰ)	
	佐城遺跡(Ⅱ)	
	田上遺跡(Ⅲ)	
	井口遺跡	
	坊僧遺跡	
	滝ノ宮遺跡	
	一般国道192号徳島南環状線発掘調査	
	矢野遺跡	15
	試掘調査	23
	四国縦貫自動車道関連整理業務	
	上喜来蛭子～中佐古遺跡	24
	日吉～金清遺跡	25
	西谷遺跡	26
	柿谷遺跡	27
	神宮寺遺跡	28
	菖蒲谷西山B遺跡	29
	山田古墳群A	30
	古城遺跡	31
IV	埋蔵文化財センターの活動	32
V	受贈図書	34

## 例 言

- 1 本書は財団法人徳島県埋蔵文化財センターの平成5年度事業をまとめた年報である。
- 2 III 事業報告に関する地形図は国土地理院発行1/50,000地形図を転載したものであり、各遺跡に図幅名を記した。
- 3 III 事業報告の概要は各担当が執筆し、その責を文末に記した。
- 4 本書の編集は菅原が行った。

# I 財団法人 徳島県埋蔵文化財センターの概要

## 1 設立の目的

財団法人徳島県埋蔵文化財センターは、徳島県内における埋蔵文化財の調査及び研究を行うとともに、文化財の保護意識の啓発、普及を図り、もって地域文化の振興に寄与することを目的とする。

## 2 事業の内容

- (1) 埋蔵文化財の調査及び研究に関する事業
- (2) 出土した文化財の整理及び保存に関する事業
- (3) 埋蔵文化財の活用及び保護意識の啓発、普及に関する事業
- (4) その他目的を達成するために必要な事業

## 3 設立年月日

平成元年4月1日

## 4 出資者

徳島県

## 5 基本財産

10,000千円

## 6 事務所所在地

徳島県板野郡板野町川端字関ノ本25番

# 平成5年度 財団法人 徳島県埋蔵文化財センターの組織

## 役員

- 理事長**  
 近藤 通弘 県教育長
- 副理事長**  
 片山 茂 県教育次長  
 板東 武 県教育次長
- 理事**  
 佐藤 幸雄 県教育委員会参事兼総務課長  
 松本 学 県土木部監理課長  
 永山 賀久 県教育委員会義務教育課長  
 安芸 武 県教育委員会高校教育課長  
 浜 高公 県教育委員会文化課長

- 常務理事**  
 柴田 広
- 監事**  
 米沢 靖二 県副出納長  
 井内 憲次 県監査事務局監査第一課長

## 職員

- 事務局長** 柴田 広
- 総務課**  
 課長 岡本 一仁  
 主事 三木 和文  
 臨時補助員 藤川 淑江 安芸 敦子
- 調査課**  
 課長 紀伊 司郎  
 調整係長 島逯 賢二  
 技術主任 酒井 彰彦  
 研究員 九十九 肇 佐野 耕市  
 調査係長 菅原 康夫  
 研究員 湯浅 利彦 藤本 好浩  
 早測 隆人 久保脇美朗  
 辻 佳伸 橋川 充男  
 篠原 貴文 須崎 一幸  
 小泉 信司 藤川 智之  
 氏家 敏之 原 芳伸  
 栗林 誠治 西岡 早苗  
 扶川 道代 佐藤 誠二  
 藤澤 幸代 重見 高博  
 囑託員 武田 直樹 菊地 久恵  
 板東 美幸 谷 愛  
 萩野 欽也 渡邊 旬一  
 畑中 伸俊 金平 和江  
 大塚 治雅



## Ⅱ 平成5年度事業概要

### 1 理事会の開催

#### 第17回理事会

開催日 平成5年4月1日 県庁教育長室

議案 第1号議案 財団法人徳島県埋蔵文化財センター役員選任の件

#### 第18回理事会

開催日 平成5年6月29日 県庁教育長室

議案 第1号議案 平成4年度事業報告の承認について

第2号議案 平成4年度収支決算の承認について

第3号議案 平成4年度未処分剰余金の処理について

#### 第19回理事会

開催日 平成6年3月18日 県庁教育長室

議案 第1号議案 平成5年度事業計画の変更について

第2号議案 平成5年度補正予算(案)について

第3号議案 平成6年度事業計画(案)について

第4号議案 平成6年度予算(案)について

#### 第20回理事会

開催日 平成6年3月31日 県庁教育長室

議案 第1号議案 財団法人徳島埋蔵文化財センター役員選任について

### 2 事業の状況

徳島県からの委託により、次の事業を実施した。

四国縦貫道関連等埋蔵文化財調査

業務内容 四国縦貫道関連埋蔵文化財発掘調査業務

2町9遺跡の発掘調査を実施した。

四国縦貫道関連埋蔵文化財出土品整理業務

上喜来蛭子～中佐古遺跡他9遺跡の整理業務を実施した。

一般国道192号徳島南環状線埋蔵文化財発掘調査業務

矢野遺跡の発掘調査を実施した。

### 3 収支決算報告

財団法人徳島県埋蔵文化財センターの平成5年度収支決算は次のとおりである。

## 平成5年度決算状況

(単位 円)

## (1) 収入の部

科 目	予算額	決算額	比較	備 考
1 県委託金	410,319,000	410,319,040	40	
2 諸収入	1,325,000	1,326,098	1,098	
合 計	411,644,000	411,645,138	1,138	

## (2) 支出の部

科 目	予算額	決算額	比較	備 考
1 四国縦貫自動車道埋蔵文化財調査業務	155,849,000	155,849,300	300	
2 一般国道192号徳島南端状線埋蔵文化財調査業務	254,470,000	254,469,740	△260	
3 その他の支出	1,325,000	1,076,350	△248,650	
合 計	411,644,000	411,395,390	△248,610	

### Ⅲ 事業報告

平成5年度は徳島県と平成5年4月1日付で締結した業務委託契約書に基づいて事業を実施した。四国縦貫自動車(脇～美馬間)10次区間路線延長11.7kmは分布調査の結果、15遺跡106,000㎡が調査対象面積となっている。5年度は昨年度の佐城遺跡(Ⅰ)・(Ⅱ)・(Ⅲ)、滝ノ宮遺跡の試掘調査に引き続いて用地交渉の成立した地点から順次試掘調査に着手したが、多くの未取得用地を含んでおり、原遺跡(Ⅰ)・佐城遺跡(Ⅰ)・(Ⅲ)・井口遺跡が試掘調査のみで終了した以外は、次年度に本調査範囲の確定を行うこととなった。坊僧遺跡では調査地周辺に周知の坊僧窯址群が位置するため、磁気探査をあわせて行い、窯体を確認している。全般に遺跡の遺存状況は悪く、5年度の実掘面積は4,200㎡にとどまった。

一般国道192号徳島南環状線埋蔵文化財調査は矢野遺跡の継続調査であるが、昨年銅鐸が出土した地点の南北に調査区(側道としての供用部分)を拡張した。その結果、矢野遺跡は自然流路によって区画された4群程度の遺跡群から形成され、銅鐸は後期を主体とする集落のほぼ中央に埋納されていることが明らかになった。

今年度調査では製品や製作工程の詳細は明かではないが、蛇紋岩を素材とする攻玉の存在が確認された。調査概要でも触れているように、当該期の蛇紋岩製勾玉製作は吉野川上流の三加茂町稲持遺跡にみられるが、同様の製作技法が想定される。

阿波で製作された勾玉は中・東部瀬戸内地域に搬出されているが、稲持遺跡にみられる勾玉の形状は搬出勾玉と異なり、阿波での蛇紋岩製勾玉が朱の精製に係る遺跡に及んでいることから、稲持遺跡での素材の供給、最終地での製品化という流通構造を予測したが(菅原康夫「吉野川上流の勾玉製作」『考古学と技術』同志社大学考古学シリーズⅣ 1988)、徳島市教育委員会による矢野遺跡国府変電所地区の調査で2号住居跡からc字形勾玉が2点出土していることから(徳島市教育委員会『第14回埋蔵文化財資料展 阿波を掘る』1994)、その製作地が矢野遺跡である可能性が高くなった。また矢野遺跡においても朱の精製が広範に行われていることが追認された。

今年度は延命地区において遺跡の広がり並びに掘削深度を確認するための調査を実施した。その結果、遺跡の南端はほぼ鮎喰川堤防際までに及ぶことが確認され、観音寺・矢野・延命地区に係る延長約2,500mの調査対象地が確定した。

発掘調査以外では、銅鐸の保存処理を委託した。また、銅鐸埋納坑周辺を中心に未調査地(本線供用部分)南北65m、東西12mの範囲について、主線16本を設定して地下レーダー探査を行った。その結果、青銅器の反応はなかったが、埋納坑の東5mの地点に直径8m程度の円形竅穴住居跡が存在していることが新たに確認された。

四国縦貫道関連埋蔵文化財出土品整理業務は概要報告のとおり、報告書を刊行した前田遺跡の他、8遺跡の報告書原稿執筆及び前年度執筆完了の9遺跡5冊の報告書を刊行した。(菅原)

四国縦貫自動車道（脇～美馬間）関連発掘調査一覧

No	遺跡名	所在地	調査面積	調査期間	時代	遺構	遺物
1	原道跡（Ⅰ）	美馬郡脇町大字北庄	380㎡ (試掘調査)	5. 6. 28～5. 7. 9		無	石鏝 土師器
2	原道跡（Ⅱ）	美馬郡脇町大字北庄	1,060㎡ (試掘調査) 500㎡ (本調査)	5. 6. 10～5. 8. 3 5. 9. 1～5. 10. 7	平安時代 ◎鎌倉時代 ◎室町時代	掘立柱建物跡 棚列	土師器・須恵器・輸入磁器 銅貨 砥石
3	竊射道跡	美馬郡脇町大字北庄	240㎡ (試掘調査)	5. 4. 13～5. 4. 14 6. 1. 12～6. 1. 14	鎌倉時代 ◎室町時代	柱穴	土師器 須恵器 陶器
4	佐城道跡（Ⅰ）	美馬郡脇町大字脇町	400㎡ (試掘調査)	5. 4. 28～5. 5. 14		無	石鏝 銅貨
5	佐城道跡（Ⅱ）	美馬郡脇町大字脇町	70㎡ (試掘調査)	5. 10. 27～5. 10. 28	◎弥生時代	柱穴	弥生土器 須恵器
6	田上道跡（Ⅲ）	美馬郡脇町字西田上	150㎡ (試掘調査)	6. 2. 2～6. 2. 4	室町時代	土坑	土師器・瓦 鉄釘
7	井口道跡	美馬郡脇町大字井口	150㎡ (試掘調査)	5. 10. 18～5. 10. 20		無	無
8	坊僧道跡	美馬郡美馬町字坊僧	750㎡ (試掘調査)	6. 2. 21～6. 3. 15	◎奈良時代 ◎平安時代	無	須恵器・石鏝
9	滝ノ宮道跡	美馬郡美馬町字滝ノ宮	500㎡ (試掘調査)	5. 12. 7～5. 12. 22	◎鎌倉時代 ◎室町時代	柱穴	土師器・須恵器・石鏝 石椀丁

◎主体となる時期

一般国道192号徳島南環状線発掘調査一覧

No	遺跡名	所在地	調査面積	調査期間	時代	遺構	遺物
1	矢野道跡	徳島市国府町矢野	12,804㎡	5. 4. 30～6. 1. 27	縄文時代 ◎弥生時代 古墳時代 ・平安時代	竪穴住居跡 溝・土坑 自然水路	縄文土器 弥生土器 石器 鉄器 土師器・須恵器 瓦
2	矢野～延命地区	徳島市国府町矢野他	410㎡ (試掘調査)	6. 1. 10～6. 3. 15	◎弥生時代 ・古墳時代 奈良時代 ◎平安時代 ◎鎌倉時代	溝 畦畔 土坑	弥生土器・土師器・須恵器・土師質土器 瓦器

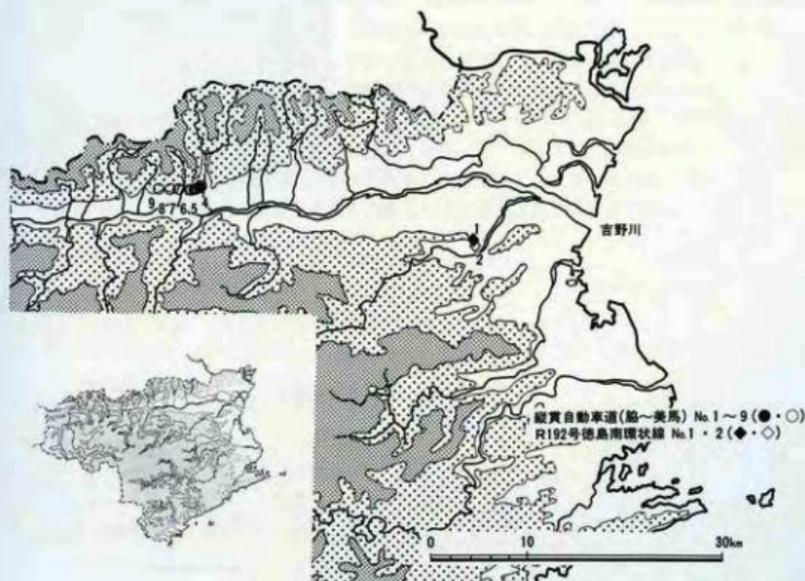
◎主体となる時期

四国縦貫自動車道関連整理業務一覧

No	遺跡名	所在地	整理箱数	整理期間	時代	遺構	業務内容
1	上喜来峠子～中佐古道跡	阿波都市場町上喜来	132箱	5. 4. 1～6. 3. 31	旧石器時代 ・縄文時代 弥生時代 ・鎌倉時代 ◎室町時代	竪穴住居跡 掘立柱建物跡 土坑 中世墓 溝 木炭窯	報告書原稿の執筆まで
2	日吉～金清道跡	阿波都市場町尾間	57箱	5. 4. 1～6. 3. 31	縄文時代 弥生時代 平安時代 ・鎌倉時代 ◎室町時代	掘立柱建物跡 土坑 土城墓 集石遺構 溝 ・木炭窯	報告書原稿の執筆まで
3	前田道跡	板野郡土成町土成	54箱	5. 4. 1～6. 3. 31	◎弥生時代 ◎鎌倉時代 江戸時代	竪穴住居跡 ・掘立柱建物跡 土坑 木炭窯 鍛冶遺構 鋤造関連遺構	報告書の刊行

No	遺跡名	所在地	整理箱数	整理期間	時代	遺構	業務内容
4	西谷遺跡	板野郡上成町 高尾	73箱	5. 4. 1～6. 3. 31	旧石器時代 ◎縄文時代 ◎弥生時代 ◎室町時代	壁穴住居跡 ・掘立柱建 物跡・土坑 溝 自然 流路	報告書原稿の執筆まで
5	柿谷遺跡	板野郡上板町 泉谷	44箱	5. 4. 1～6. 3. 31	旧石器時代 ・弥生時代 ◎古墳時代	横穴式石室 小石室墓 土墳墓 溝	報告書原稿の執筆まで
6	神宮寺遺跡	板野郡上板町 神宅	241箱	5. 4. 1～6. 3. 31	平安時代 ◎鎌倉時代 ◎室町時代	礎石建物跡 掘立柱建 物跡 土壇 土坑 溝 土器徳成 窯 石塔群	報告書原稿の執筆まで
7	菖蒲谷西山B 遺跡	板野郡上板町 神宅	16箱	5. 4. 1～6. 3. 31	◎古墳時代 平安時代	横穴式石室 火葬墓	報告書原稿の執筆まで
8	山田古墳群A	板野郡上板町 神宅	71箱	5. 4. 1～6. 3. 31	◎古墳時代 ◎室町時代	横穴式石室 小横穴式 石室 中世 墓	報告書原稿の執筆まで
9	古城遺跡	板野郡板野町 古城	20箱	5. 4. 1～6. 3. 31	平安時代 ◎鎌倉時代 室町時代	掘立柱建物 跡 欄列・ 溝 土坑・ 土壇墓	報告書原稿の執筆まで

◎主体となる時期

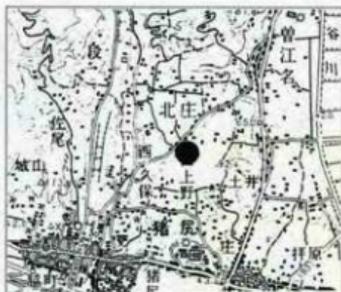


発掘調査地

原 遺 跡 (Ⅱ)

所在地 美馬郡脇町北庄字原1138  
 調査期間 1993年9月1日～10月7日  
 担当者 佐野 九十九

**調査概要** 本遺跡は、曾江谷川西岸、標高90～100m前後の中位段丘上のはぼ中央部に位置する。吉野川沿いの平坦部との比高差は約40mあり所々に樹枝状の小さな河川によって深く開折された急崖がみられる。現況は段々畑・水田となっているが、本来は南東方向に向かう緩傾斜の地形である。



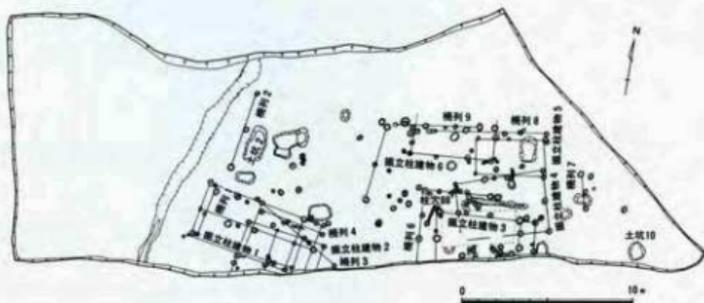
1 調査地点の位置 (脇町)

今年度、6～8月に試掘調査を行なった結果、中世の包含層が確認できたので、直ちに本調査に移行した。その結果、掘立柱建物跡6棟、柵列9列、土坑10基等を検出した。

**掘立柱建物跡** 掘立柱建物跡1 (SA1001) (4)・掘立柱建物跡2 (SA1002)・掘立柱建物跡3 (SA1003)は、一部が調査区外であるため、全容は不明であるが、2間×3間で東面に廂をもつ掘立柱建物跡と思われる。掘立柱建物跡4 (SA1004)も2間×3間であると思われる。掘立柱建物跡5 (SA1005)は2間×1間の建物で、建物の大きさ・方向より掘立柱建物跡3に付属する建物であると思われる。また、



2 掘立柱建物跡1・掘立柱建物跡2



3 遺構配置図

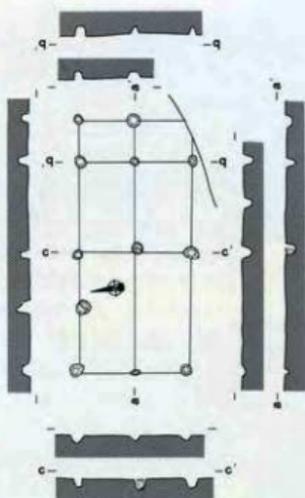
掘立柱建物跡2は、北方と西方に柵を、掘立柱建物跡3は北方と西方にL字状に柵を、掘立柱建物跡4は東方に短い柵状のものを構成している。

**土 坑** 10基の土坑が検出された。土坑2 (SK1002) より土師質土器の皿、土銅片、13世紀の東播系の甕片、鋤蓮弁のみられる青磁碗(5-2)等が出土し、土坑10 (SK1010) から、13世紀の東播系のこね鉢片と土銅片(5-4)、砂岩製の台石と砥石(5-5)が出土した。上記以外の土坑埋土内に遺物はみられなかった。これらの土坑は、伴う遺物が少なく、いずれもその性格は不明である。

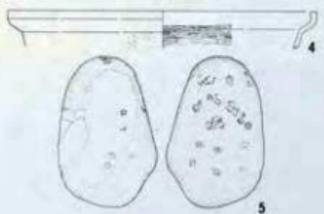
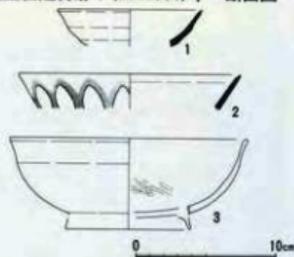
**出土遺物** 土師質土器の杯や皿が出土物の大部分を占めている。10世紀の須恵器片や緑釉陶器(5-1)や表面の磨滅が著しいが、黒色土器の椀(5-3)が出土し、また、13世紀の東播系の甕片や青磁碗片も出土している。また、5-5の砂岩製の砥石は半分に割れた状態で、2地点より出土した。その半分は第88番の柱穴(SP1088)の根込石として転用された状態で出土し、若干の火をうけた跡が見られる。残りの半分は、土坑10 (SK1010) から出土した。

**まとめ** 今回の調査によって検出された遺構は12～14世紀(鎌倉時代)の掘立柱建物跡を中心としたものである。掘立柱建物跡は、柱穴に伴う出土遺物等より3時期にわたっていると考えられる。第1の時期は12～13世紀段階で掘立柱建物跡1・掘立柱建物跡3・掘立柱建物跡5、第2の時期は13～14世紀段階で掘立柱建物跡2・掘立柱建物跡6、第3の時期はやはり13～14世紀段階だが、第2の時期に続く時期で、掘立柱建物跡4である。

今回の調査結果から、鎌倉時代に本遺跡周辺に集落があったことが想像される。本遺跡の調査は、建物の規模や構成等で他の鎌倉時代の集落と比較する上では貴重な資料であろう。(佐野)



4 掘立柱建物跡1 (SA1001) 平・断面図



5 出土遺物実測図  
(1・2・3は1/4, 4・5は1/8)



る状況であったが、南半分については、原遺跡(Ⅱ)と同時期と思われる中世の包含層を確認したので、調査範囲を絞り次年度に本調査を実施することにした。

**佐城遺跡**

(Ⅰ)

昨年度に続いての試掘調査である。大谷川右岸の河岸段丘上に位置し、標高は110m台である。調査区の東西両端は、河川の開析によって比高差40m程の急崖となっている。本来は南方へ向う緩斜面である。調査地内に第2次大戦時の砲弾が残存する可能性があったため、作業の安全のため事前に電磁探査調査を行なった。試掘調査の結果、田畑の造成の過程にかなりの削平をうけ、耕作土直下が多くの場合、整地された地山となっている堆積状況であり、何らの遺構も確認できなかったことから、本調査の必要は無いものと判断した。



4 鶴射遺跡土層断面

**佐城遺跡**

(Ⅱ)

昨年度に続いての試掘調査である。佐城遺跡(Ⅰ)より西方に谷をひとつはさんだ対岸で、河岸段丘上に位置し、標高115~130mにわたる傾斜地である。一部のトレンチより弥生時代の遺構・遺物が検出されたが、近年の家の建築時の基礎地盤工事による攪乱や田畑の造成によって、遺構面がそのトレンチ以上の広がりをもたないことを確認した。

昨年度の試掘調査で弥生時代の包含層を確認している範囲に絞って、次年度に本調査を実施することにした。



5 佐城遺跡(Ⅰ)作業状況

**田上遺跡**

(Ⅲ)

新町谷川西方の河岸段丘上に位置し、標高105m前後の傾斜地である。表土直下が明黄褐色の砂質土の地山層となっている堆積状況である。表土層ならびに地山層上面から15~16世紀の土師質土器片や瓦片、鉄釘が出土した。一つ谷をはさんだ対岸に戦国時代の山城「岩倉城」跡があり、調査区内に岩倉城の楼望の一つである「宝冠坊」跡があったという文献資料も存在することから、調査区の一部について、確認する必要がある。



6 佐城遺跡(Ⅱ)遺物出土状況

**井口遺跡**

井口谷川右岸の河岸段丘上から阿讃山脈の山裾にかけて位置する。標高は100~120mの



7 田上遺跡(Ⅲ)トレンチ完掘状況

傾斜地である。試掘調査の結果、表土直下よりしまりのない水分を多く含む角礫層が続きまた、果樹園であったところでは、地下約1m程まで果樹を植えた際に攪乱をうけている堆積状況であることが分かり、何らの遺構・遺物も確認できなかったことから、本調査の必要は無いものと判断した。

**坊僧遺跡** 横穴式石室「段の塚穴」より一段上の段丘上に位置する。標高は150～160mである。調査地周辺には郡里廃寺(奈良～平安時代)に供給したとされる須恵器窯跡や瓦窯跡が点在するため斜面部を中心に磁気探査作業を行った。その結果、3基の窯跡らしき反応が得られたので、次年度以降に本調査を行ない確認することとした。試掘調査を行なった地区については削平・攪乱が著しく、何らの遺構も確認できなかった。

**滝ノ宮遺跡** 昨年度に続いての試掘調査である。鍋倉谷川東岸の標高130m前後の隆起扇状地上に位置する。昨年度に確認している遺構面の続きが確認でき、また、それと同様の土層の堆積も別地点で確認できた。しかし、大部分のトレンチでは、田畑の造成によって、かなりの削平をうけ、表土直下より扇状地特有のしまりのない水分を多く含む砂岩の角礫層が続く堆積状況となっている。遺構面を形成する土層が確認できた範囲に絞って、次年度以降に本調査を実施することにした。

(佐野・九十九)



8 井口遺跡調査前風景



9 坊僧遺跡磁気探査実施状況



10 滝ノ宮遺跡出土遺物



⑦井口遺跡 ⑧坊僧遺跡 ⑨滝ノ宮遺跡  
11 調査地点の位置(脇町)

# 矢野遺跡

所在地 徳島市国府町矢野字法師ヶ久保309他

調査期間 1993年4月30日～1994年1月27日

担当者 湯浅 藤本 藤沢 (第1分割)  
氏家 西岡 栗林 重見 (第2分割)



1 調査地点の位置 (川島)

**調査概要** 本遺跡は鮎喰川下流左岸の沖積地に位置する。昨年度の調査では、竪穴住居跡に近接して埋納された銅鐸が出土し、注目を集めた。今年度は、昨年度調査区の南北に調査区を設定し、延長650mの範囲の調査を行った。調査区が長大なため、工事用中心杭No.64以北を第1分割、以南を第2分割として分担した。

今年度調査でも、古墳時代以降、古代・中世を中心とする第1遺構面が部分的に、弥生時代の第2遺構面が全面で検出された。

**第1分割** 第1遺構面の遺存している部分は調査区の約半分である。掘立柱建物跡2棟、柵列1列、溝9条、土坑4基、ピット16基が検出されている。掘立柱建物跡は2棟とも梁間2間、桁行2間の規模で、平安時代後期に属するものと考えられる。柵列の検出された部分では平安時代前期の遺物が多量に出土し、遺構面上で珠文縁均整唐草文軒平瓦が検出された。



2 第1分割 瓦出土状況



3 第1分割 竪穴住居跡 (SB2002・2005・2006・2007) 出土遺物

**第2遺構面** 弥生時代後期中葉～終末期の遺構は竪穴住居跡14軒、溝20条、井戸1基、土坑61基、ピット30基、土器棺墓2基、自然流路2条、不明遺構12基である。他に弥生時代中期後半の自然流路が検出されている。遺構面は、起伏に富み、遺構群は自然堤防上に位置する。

**竪穴住居跡 SB2006** 長軸8.5m、短軸8.0mの不整な円形を呈し、深さは35cmを測る。南西部にわずかな張り出しがある。住居東半の覆土中に中心から放射状に炭化材が遺存しているが、西半では認められない。柱穴は8カ所検出され、そのうちの5カ所を支柱穴とする構造であったと考えられる。炉は中心部で不整形の掘り方をもつ。床面は西半が砂礫、東半が砂であるが、明確な貼り床は認められない。

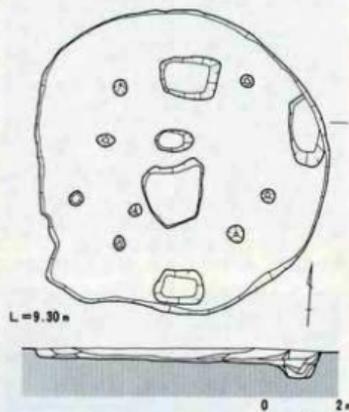
住居内で、焼土が詰まった3基の土坑が検出された。隅丸方形で、深さは40cm、規模もよく似る。東側と南側は周壁に沿って、北側の土坑はやや内に位置する。東側の土坑からは獣骨が検出された。

時期は弥生時代終末期である。

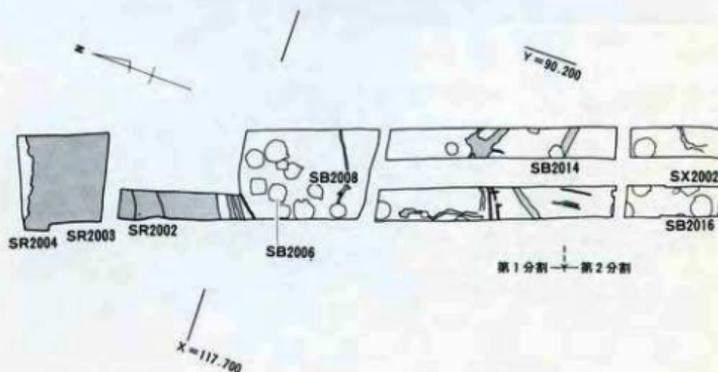
**竪穴住居跡 SB2008** 北西部に張り出しをもつ楕円形の住居跡である。規模は長軸7.0m、短軸6.0m、深さ36cmを測る。柱穴の配置から5本支柱の構造と推定される。炉は2カ所の掘り方が検出され、



4 第2遺構面 竪穴住居跡完掘状況



5 第1分割 SB2006 実測図



床面はオリーブ黄色の粘質土による貼り床が認められた。本調査区内では数少ない打製石鏝が1点、結晶片岩製打製石砲丁が5点出土した。

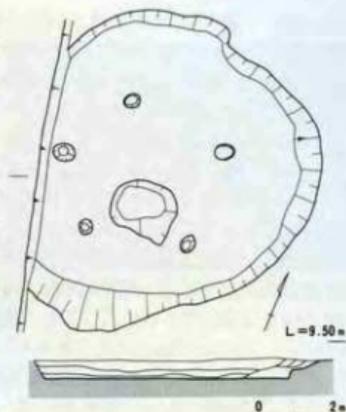
時期は後期中葉である。

竪穴住居跡  
SB2014

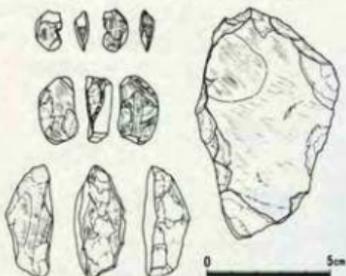
第2分割との境の部分で、他の住居群とはやや離れた位置で検出された。やや不整な円形を呈し、検出部分で長軸5.9m、短軸は6.3mを測る。北東部にわずかな張り出しを有する。検出面からの深さは40cm、5本主柱の構造で、わずかにくぼむ地床が検出された。床面は砂礫層であるが、明確な貼り床は認められない。

覆土から蛇紋岩片が34点出土し、うち10点には研磨された痕跡がある。1点腹部に抉りを施したのも含まれており、完成された勾玉は出土していないものの、製作工程をある程度想定し得る資料が揃う。蛇紋岩は大きな剥片の段階から研磨を施し、打割後にさらに磨いている。床面からは砥石3点、筋砥石2点、台石1点、石鋸4点の製作工具も出土しており、勾玉製作工房と捉えられる。県内では三加茂町稲持遺跡に同じ時期の例があり、製作技法にも共通点を指摘できる。

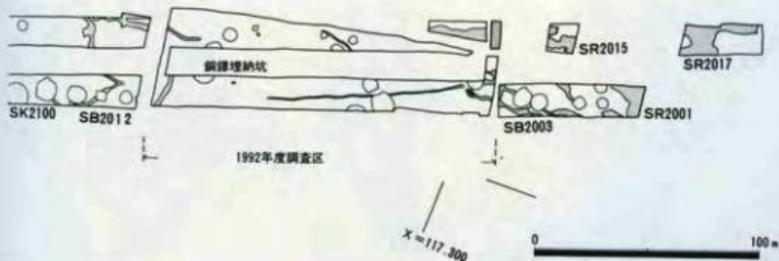
時期は弥生時代後期後葉である。



6 第1分割 SB2014 実測図



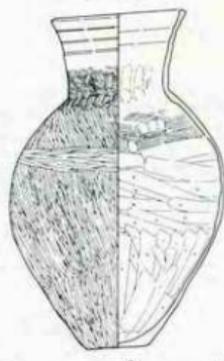
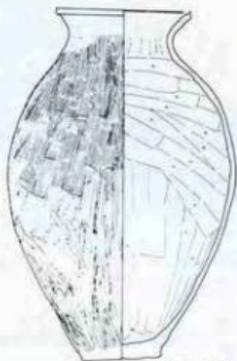
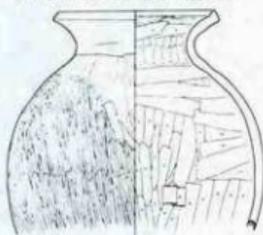
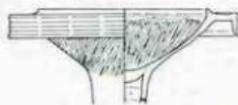
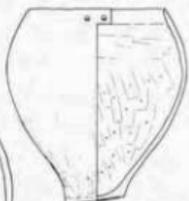
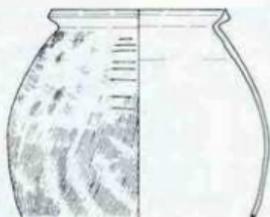
7 蛇紋岩製勾玉未製品



8 遺構配置図

**自然流路** 調査区の北端で検出された弥生時代から平安時代に河道となっていた部分である。両肩幅約80m、遺構面からの深さは2mを測る。周辺の地形から、この流路は調査区の西側を北流し、この付近で東に向きを変えていると捉えられる。この河道が弥生時代後期中葉から終末期の集落の区切りとしての意味をもっていたと考えられる。

**自然流路** SR2002北半部の弥生時代中期後半の自然流路である。幅24mの間に明かな2回の堆積が観察できるが、出土土器の様相は大差ない。上層のSR2003の底は浅いV字状を呈し、10~20cm大の円礫と、土器が連続的に出土した。下層の2004は北岸が急崖となっており、底に近い部分では砂や砂礫が繰り返し堆積している。砂層上の粘質土層で完形の壺形・甕形・高杯形土器が数個体のまとまり、あるいは単独で出土している。(湯浅)

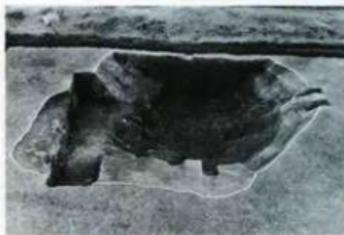


9 第1分割 自然流路 (SR2004) 出土遺物

0 10cm

**第2分割** 本調査区全面で遺構面が確認された。掘立柱建物跡11棟、溝47条、井戸1基、土坑12基、ビット165基、流路2本が検出された。遺構は中世に属するものと考えられる。

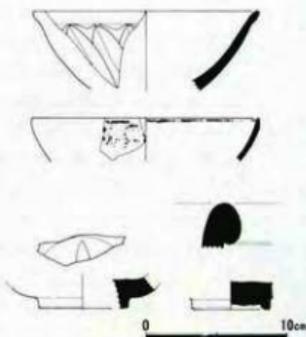
**井戸** 掘り込み直径7m、底部直径1.6m、深さ1.8mの規模で、深さ1m付近の傾斜変換地点から木杭を打ち込んでいる。杭は直径10cm大、長さ2m強と、直径5cm以下、長さ50cm程度の2種類が使用されている。出土遺物には土師器・陶器・磁器・瓦等があり、その所属時期は13世紀と考えられる。



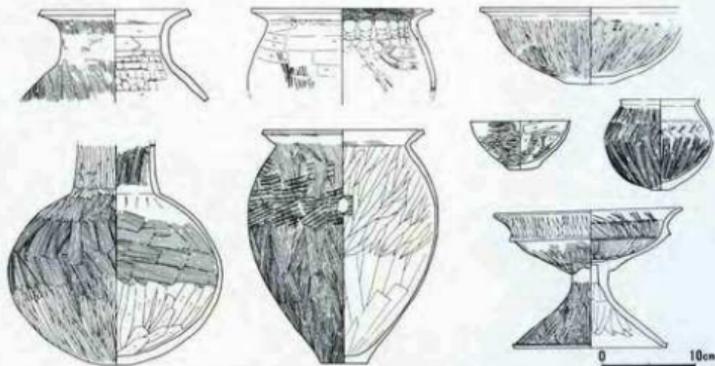
10 第2分割 SX1001 完掘状況

**第2遺構面** 弥生時代後期中葉～古墳時代前期にかけての遺構は、堅穴住居跡22軒、溝13条、井戸2基、土坑105基、ビット265基、流路17本である。調査区東側の遺構面は起伏に富み、微高地の縁辺と考えられ、住居跡等の主要な遺構は調査区西側の微高地上に展開している。

**井戸** 中央集落群の北側で検出された。隅丸方形（南北2.8m、東西2.2m）を呈した、深さ1.2mの井戸。井戸中層レベルより大量の土器が出土した。井戸の廃絶後、土砂が堆積した時点で、井戸の縁辺部にテラス面を構築し中央部のくぼんだ部分に土器を投げ込んだと考えられる。長頸壺、胴部穿孔の甕、高杯、鉢が出土し、井戸の廃絶に伴う祭祀と考えられ



11 第2分割 SX1001 出土遺物



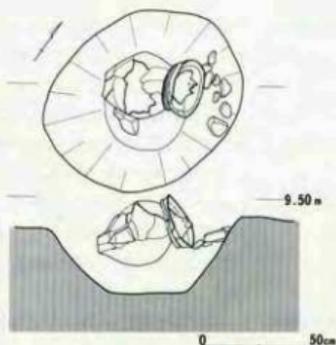
12 第2分割 SX2002 出土遺物

る。時期は、弥生時代後期中葉である。

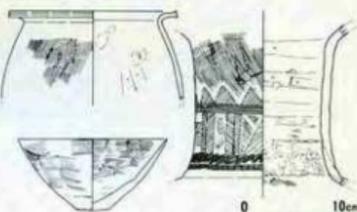
**土 墳** 3区SB2015の北側で検出された土器棺墓。  
**SK2100** 長軸0.9m、短軸0.74mの楕円形を呈する。土壌内からは甕が北東側に口縁を向けて横向きに置かれており、口縁部には脚部を叩き外した高杯の杯部を蓋に転用し、さらに杯部の蓋として高杯脚部を使用した状態で出土した。時期は弥生時代後期後葉である。

**竪穴住居跡** 直径8mのほぼ正円形を呈し、東側に方形の張り出しを有する。中央部には楕円形を呈する炉跡とそれに付属する土坑がある。上屋は4本柱に2本の支柱を持つ6本柱の構造である。床面には炉を中心に半径約1.5mの範囲に貼り床が認められる。なお、炉跡直上からは炭化した板材が、住居跡全面からは床面から少し浮いたレベルで放射状に炭化材が検出され、さらに北東側壁の一部が赤く焼けている。また、床面直上の出土遺物は少ないことから、住居廃絶後焼失したと考えられる。時期は弥生時代終末期である。

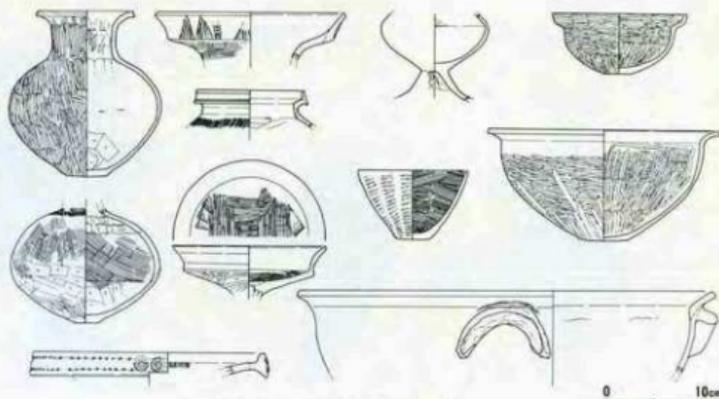
**竪穴住居跡** 長軸10.8m、短軸9.6mを測る不整形形を呈し、北東部に小型の張り出しをもつ。中央に南北3.6m、東西3.0mの浅い地床炉とそれに伴う土坑が検出された。柱穴が11基検出され、建て替えの可能性が高い。吉備産甕、吉



13 第2分割 SX2100 遺物出土状況図



14 第2分割 SB2003 出土遺物



15 第2分割 SB2016 出土遺物

備産把手付鉢、濃岐産高杯などの搬入土器が他の住居跡に比べ多く出土した。時期は弥生時代後期後葉である。

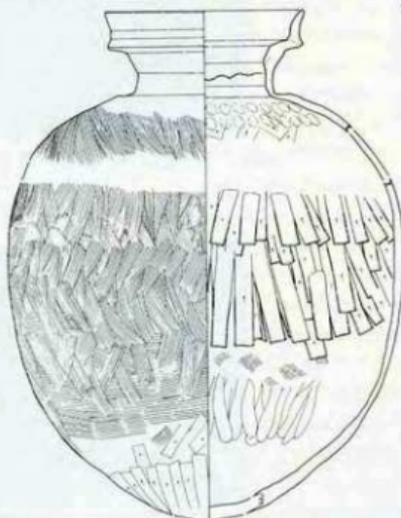
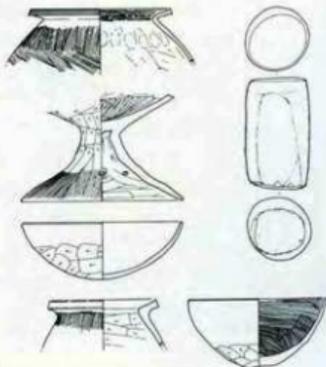
- 自然流路** 4区南端と10区北端で検出された弥生時代後期中葉から古墳時代前期にかけての河道。  
**SR2001** 両肩幅約70m。南西から北東に向かって流れ鮎喰川と西矢野谷川が合流した旧河道と考えられる。SR2017内からは胴部穿孔の甕や壺が出土しており、河川に対する祭祀を窺わせる。この河道が弥生時代後期中葉から終末期の本集落の南側を区切る流路である。



16 第2分割 自然流路内遺物出土状況

- 自然流路** 4・8・9区で検出された弥生時代後期中葉から古墳時代前期にかけての河道。推定両肩幅約15m。1～7区の遺構の展開する自然堤防と9区東側の遺構が立地する微高地の間を南から北に向かって流れる集落内の支流と考えられる。胴部穿孔の二重口縁壺、長頸壺、甕や朱の精製に使用したと考えられる石杵が出土した。

**まとめ** 今年度の調査は、銅鐸を埋納した集落範囲の把握を最大の主眼とし、昨年度調査地点の



0 10cm

17 第2分割 自然流路出土遺物

南北両側の延長部分を対象として実施した。その結果、調査区南北両端からも安定した遺構面が検出され、遺跡範囲が従来想定されていたよりも広範であることが確認された。

第1遺構面の第2分割10区と昨年度の調査区で確認された溝は、南北方向(N-15°-W)と東西方向(N-75~85°-W)がありほぼ直交しているが、その性格等は今後の検討課題である。

第2遺構面には弥生時代後期中葉~終末期にかけての集落が構築されている。この集落は南北両端が河川によって区切られたかたちとなり、集落の範囲が面的に捉えられたのは徳島県内では初めてである。河川の間約500mの範囲に総計44軒(弥生時代後期中葉12軒、後葉26軒、終末6軒)の竪穴住居跡をはじめとする多数の遺構を検出した遺構群は旧鮎喰川の形成した自然堤防(約N-30°-E)上に展開し、大きく分けて3単位に分かれる。銅鐸埋納地点は集落中央のやや南よりに当り、当該期の集落規模が最大であったことが確認された。なお、調査地は地形や遺構密度から集落の東端部分にあたと想定される。

吉備や讃岐に搬出された蛇紋岩製勾玉の工房が検出された事により稲持遺跡だけでなく、本集落内においても勾玉が生産されていたことが明らかになった。また、朱の付着した土器(高杯、片口付鉢)や石杵が出土していたことにより、朱の精製と流通に関わっていた可能性を指摘できる。さらに、吉備産、讃岐産の搬入土器が多数出土していることから、矢野遺跡が弥生時代後期~終末期にかけて特定生産物の製作・流通はもとより阿波弥生社会において中枢的位置を占めていたことが確認された。なお、矢野遺跡は本集落、北に位置する国府変電所付近の集落等3~4群の集落で構成されると推定できる。(栗林)



18 第2分割 第2遺構面完掘状況



19 第1分割 自然流路(SR2002)



20 第2分割 自然流路(SR2001)完掘状況

## 試 掘 調 査

所在地 徳島市国府町矢野字いくし105他

調査期間 1994年1月10日～3月15日

担当者 小泉 原 篠原 橋川 佐藤

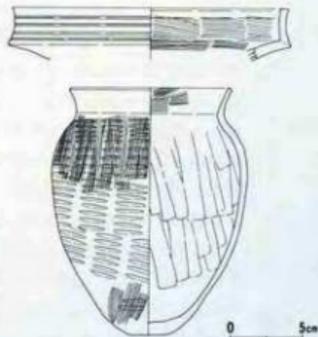
**調査概要** 調査地点は吉野川の支流に当たる鮎喰川右岸沖積地上に位置し、標高11～15mを測る。試掘調査は矢野遺跡南限の確認と延命地区での路線内での遺跡の広がりを確認するために幅50m、延長距離840mに関して164カ所のトレンチを10mピッチで設定した。弥生時代の遺構面は平成5年度調査地南端より南側約290mにわたり2面確認した。基本的な堆積は砂をやや多く含む砂質土と砂の互層であるが、トレンチごとに旧流路の影響を受け土層は複雑な状況を呈している。遺構は溝状遺構・土坑・柱穴等を確認した。包含層・遺構面から出土した遺物は壺形土器・甕形土器・二重口緑壺・鉢形土器である。時期は弥生時代後期中葉～後葉にかけてである。包含層・遺構面・遺物の状態は極めて良好である。弥生時代の遺構面の南限では地表面下20cmから礎が確認され、微高地状を呈するものと思われる。この地点から南側には古代と中世の遺構面を確認した。古代の遺構面はやや粘質を帯びた砂質土とマンガン粒の互層を呈しており、流路もしくは水田面が想定される。遺構は溝状遺構・土坑が検出された。溝は南北方向に数カ所確認でき当該期の条里に関係するものと思われ、注目される。遺物は土師器の高台付碗・須恵器壺の底部が検出されている。時期は10世紀代が想定される。中世の遺構面は地表面下70cmの位置より検出された。土層はやや砂を含む砂質土である。包含層及び遺構面からは土師質土器の杯・瓦器碗・須恵質土器等が検出された。時期は13世紀代に位置づけられる。遺構は溝状遺構・水田に伴うと思われる畦畔が検出された。(小泉)



1 調査地点の位置 (川島)



2 トレンチ土層断面



3 出土遺物実測図

かみきらいびす なかきこ  
上喜来姪子～中佐古遺跡

所在地 阿波郡市場町上喜来字窪二俣1835-1他

整理期間 1993年4月1日～1994年3月31日

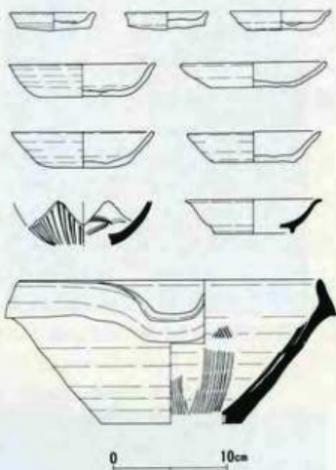
担当者 辻

**整理概要** 本遺跡は平成2年度、3年度の2次にわたり総面積12,560㎡につき発掘調査を実施した。その結果、旧石器時代から室町時代に至る遺物と縄文時代、弥生時代、中世の遺構を検出した。整理作業は遺構の注記、接合、復元等の基礎整理及び、遺物の実測、トレース、レイアウト等の作業を行い、合わせて出土した鉄滓、鋳型、溶解炉壁の化学分析の委託も行った。

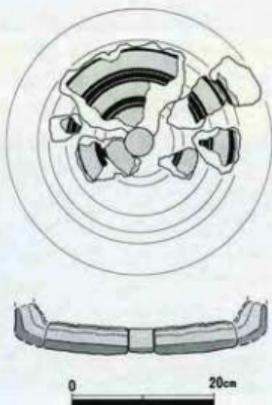
遺跡は吉野川中流域左岸、阿讃山脈より南流する日開谷川右岸の低位段丘上及び、旧河道上に位置する。出土した旧石器はいずれも原位置を遊離したものであるが、当遺跡の北側に展開する上喜来遺跡との関連を想定できる。縄文時代の遺構としては、晩期に属する土坑を1基検出した。弥生時代の遺構としては、中期に属する竪穴住居跡を1軒検出した。中世の遺構としては、段丘面上に掘立柱建物跡11棟、土坑207基、墓16基などを検出した。これらは出土遺物からすると概ね14～16世紀の間、集落として存続したものと考えられる。また集落の東端では鉄滓、溶解炉壁を多量に廃棄した土坑、鋳型を集積した土坑など、鋳造作業に係わる遺構が集中的に検出されており、鋳造工房を形成していたものと考えられる。稼働期間は15世紀後半～16世紀と考えられ、工房自体は定置的なものでなく、短期間の臨時的な作業場であったと考えられる。製品としては出土した鋳型より、寺院関係者を需要者として、鯨口、梵鐘、羽釜、鍋などを生産したものと思われる。また輪羽口、埴塙、鋳造関連道具なども出土しており、中世後半の鋳造技術を考える上で良好な資料である。

報告書は平成6年度刊行の予定である。

(辻)



1 15・16世紀の土器・陶磁器



2 鯨口鋳型復元案

ひよし かねきよ  
日吉～金清遺跡

所在地 阿波都市場町尾開字日吉523他

整理期間 1993年4月1日～1994年3月31日

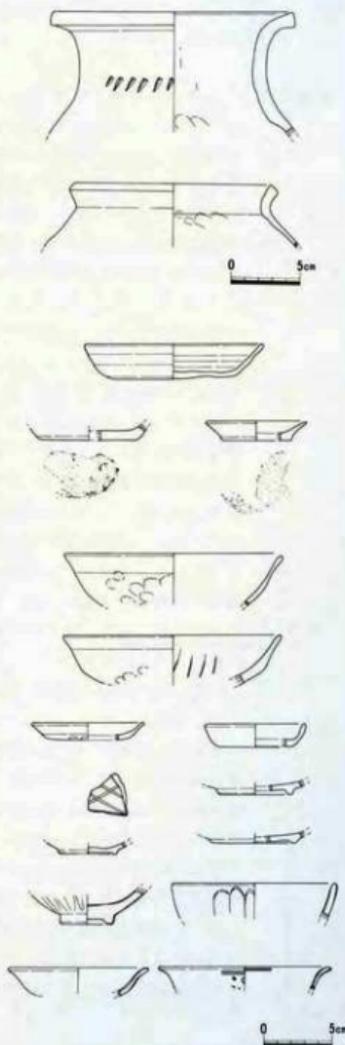
担当者 久保聡

**整理概要** 本遺跡は平成元年度に2,850㎡、平成2年度に250㎡の合わせて3,100㎡につき発掘調査を実施した。その結果、鎌倉時代、室町時代の集落跡とそれに関連する遺物のほか、縄文、弥生時代の遺物も検出された。整理作業は遺物の接合、復元等の基礎整理及び遺物の実測、トレース、レイアウト等の作業を行い、併せて出土した人骨の鑑定を委託も行った。

遺跡は切幡丘陵を流れる金清谷川の両岸に広がる緩斜面上に位置するが、遺構は右岸地域を中心に掘立柱建物跡11棟、土墳墓3基、土坑23基、溝状遺構5条などが検出されている。遺物は若干の縄文・弥生土器と打製石鎌、打製石庖丁以外はすべて平安時代から鎌倉・室町時代にかけての土師器、須恵器、瓦器、国産陶器、輸入磁器によって占められている。遺構の所属時期も概ねこれらの遺物の年代と同じ平安時代から鎌倉・室町時代にかけてのものと思われるが、掘立柱建物跡や土墳墓などの主要な遺構は15世紀中葉から16世紀前半にかけての室町時代に所属していると考えられ、遺物もその時期の土師器皿や土師器土鍋、土釜、備前焼鐮鉢などによって大部分が占められている。従来15～16世紀代に属する遺物は県下での出土例が少なく不明な点が多かったが、今回の出土例はこの間の編年的空白を埋めるものとして注目される。また、この時期以外にも鎌倉時代の遺物の中に在地で生産されたと考えられる底部切り放しに際して回転系切り技法が用いられた瓦器が出土していることも特筆される。

報告書は平成6年度刊行予定である。

(久保聡)



1 出土遺物実測図

にし たに 遺 跡  
西 谷

所在地 板野郡土成町大字高尾字西谷8他

整理期間 1993年4月1日～1994年3月31日

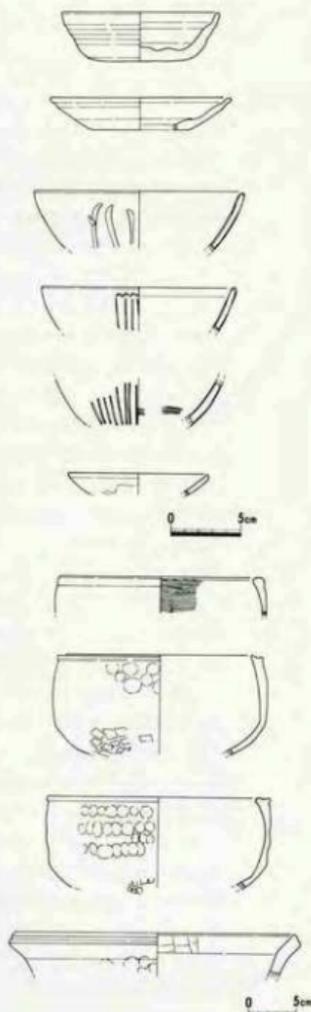
担当者 久保 聡

**整理概要** 本遺跡は平成2年度に5,630㎡、平成3年度に1,650㎡のあわせて7,280㎡につき発掘調査を実施した。その結果、縄文時代の土坑群、弥生時代の集落跡、室町時代の集落跡、などの遺構とともに旧石器から江戸時代にいたる遺物の出土を見た。整理作業は遺物の洗浄、接合、復元等の基礎整理及び遺物の実測、トレース、レイアウト等の作業をおこなった。

遺跡は宮川内谷川の支流の一つ高尾谷川と西谷川によって形成された小規模な複合扇状地上の扇央部に位置している。遺構は堅穴住居跡2軒、掘立柱建物跡2棟、土坑18基、溝状遺構3条等が検出されているが、その殆どは調査区の南東部に集中している。堅穴住居跡や土坑の多くは弥生時代中期に属しているが、土坑の一部には縄文時代後期のものも含まれている。縄文時代の遺物は、包含層出土遺物を含めると中期から後・晩期までのものが出土しているが、土坑の時期は後期中葉の彦崎KⅡ式または元住吉山式段階に属している。弥生時代中期の堅穴住居跡と土坑は何れも出土遺物が少なく、正確な時期決定は難しいが出土した高杯や甕などの特徴から中期中葉段階に位置づけられると考えられ、周辺の扇状地上の弥生遺跡の中では古い時期に属している。2棟の掘立柱建物跡とその東側に掘り込まれた溝は何れも出土遺物から15世紀段階の比較的短い期間に形成されたものと考えられ、この時期の遺物組成を考える上で貴重な資料となるものと思われる。

報告書は平成6年度刊行予定である。

(久保 聡)



1 出土遺物実測図

# 柿谷遺跡

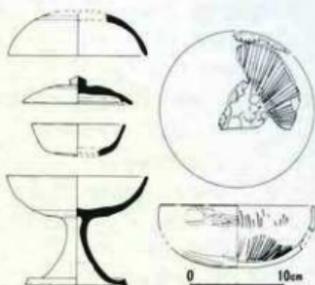
所在地 板野郡上板町泉谷字原地21他  
 整理期間 1993年4月1日～1994年3月31日  
 担当者 藤川

**整理概要** 本遺跡は、平成2年度に3,280㎡、平成3年度に5,650㎡の計8,930㎡の発掘調査が実施された。発掘調査では、古墳時代後期の横穴式石室を主体とする円墳などを検出したほか、旧石器・弥生時代の遺物も出土した。整理作業は、遺物の洗浄・注記、接合・復元の基礎整理および遺物の実測、トレース、レイアウトなどの各作業を行った。また、出土した鉄器の保存処理、耳環のクリーニングを行った。平成5年度は以上の作業及び原稿の作成を終了、平成6年度には報告書刊行の予定である。

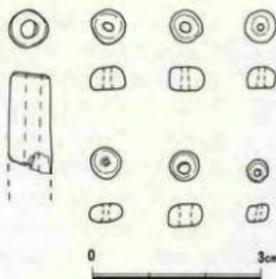
柿谷遺跡は、阿讃山麓の南裾、鶯谷川と泉谷川の扇状地上に位置する。3条の溝に挟まれた区域から古墳8基、小石室墓7基などが検出された。古墳はいずれも開塹による削平が著しく、上部構造は失われていた。各主体部には1枚または2枚の床面を有し、須恵器、土師器、耳環、ガラス玉、鉄鏃、刀子、馬具などが副葬されていた。出土した須恵器の型式から、各古墳は6世紀の後葉から7世紀の前半にかけて築造され、7世紀代を通して追葬などの再利用が続けられたことが分かる。

最も古い7号墳の横穴式石室は玄室中央部が丸く脹らむ胴張りの特徴を有しているが、後続するものは徐々に直線的で狭長な形態へ変化する。一つの古墳群内で横穴式石室の形態変化が逐える貴重な例である。

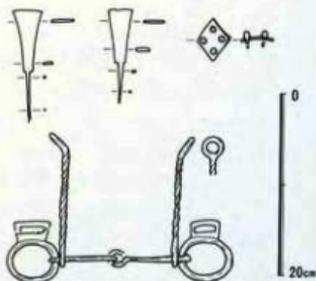
また、小石室墓のうち壱穴式石室の構造をもつ4～8号墓は内法長が0.8～1.2mと小形で、再葬墓の可能性が非常に高い。やや大形の9号墓を含め、古墳群造営のピークとなる6世紀末から7世紀初頭に築かれている。横穴式石室に従属するとされる性格を検討する上で重要な遺跡である。(藤川)



1 SM1003 出土土器



2 SD1002-3 出土玉類



3 SM1002 出土鉄器

# じんぐうじ 神宮寺 遺跡

所在地 板野郡板野町神宅字神宮寺  
 整理期間 1993年4月1日～1994年3月31日  
 担当者 早測

**整理概要** 本遺跡は平成3年度と平成4年度の2次にわたり面積15,649㎡を対象として調査を実施したものである。

遺跡は礎石建物(堂)を中心に建物跡11棟また石塔群2カ所が主な構成要素で寺院的様相の強い遺跡である。

神宮寺遺跡の整理作業は、洗浄・接合・遺構台帳整理など基礎整理作業と共に、遺物実測・遺物トレース・レイアウト及び原稿執筆の作業を行った。また、これらの作業と併行して鉄滓の組成分析及び鉄製品との関連性について分析を委託した。

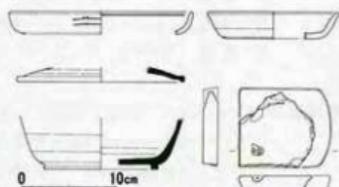
遺構の初現は9世紀前半代から認められ、集石を伴う墓と考えられるもの他は明確な遺構は認められなかったが、遺物では多量の須恵器壺・甕・土器器皿の他、石帯の鉈尾が1点出土している。

遺構の中心時期は13世紀以降で、向拝を付設した堂を中核とする周辺建物群と石塔群が確認できる。その中で、堂周辺部に造成された平坦面の規模は東西でほぼ30mを計測し、その間で3棟ないし4棟の建物が想定される。

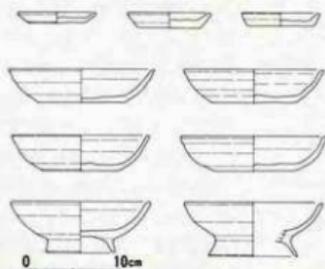
本遺跡における寺院建立にあたっては古代から墓域として認識された地点に創設しており思想的継続性が伺え、また「神宮寺」の成立については一要因として地域有力層の祖神を祭る為の寺として後に造られ発展したものと捉えられる。寺域の設定については堂を中心に数棟の建物群と、その周辺部に構築された石塔群の集合体としての寺域が想定される。

報告書は平成6年度刊行予定である。

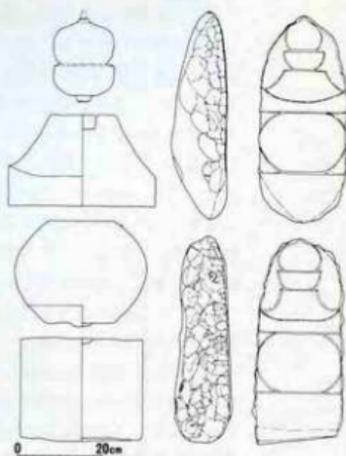
(早測)



1 8・9世紀代の遺物



2 土器焼成窯出土遺物実測図



3 石塔実測図

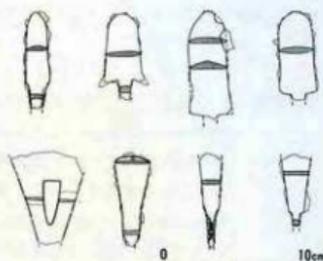
しゅうぶだにしやま  
葛蒲谷西山B遺跡

所在地 板野郡上板町神宅字葛蒲谷13他  
 整理期間 1993年4月1日～1994年3月31日  
 担当者 須崎

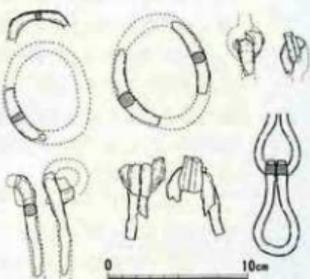
**整理概要** 本遺跡は、平成3年度に1,610㎡、平成4年度に250㎡を対象として調査を実施したものである。調査によって得られた成果は、周溝を伴う古墳時代後期の円墳や平安時代のものとみられる火葬墓などの遺構と、古墳時代を主とする遺物である。整理作業は、遺物の洗浄・注記、接合・復元等の基礎整理、及び遺物の実測、トレース、レイアウト等の作業を行い、併せて出土した鉄器の保存処理、耳環のクリーニングを行った。平成5年度は以上の作業及び原稿の作成を終え、平成6年度には報告書刊行の予定である。

遺跡は、阿讃山脈南麓の標高約77～98mの尾根上に立地する。尾根上に直径が9～14mを測り、主体部に横穴式石室を持つ円墳とそれに伴う周溝、平安時代のものと思われる火葬墓が1基確認された。これらの横穴式石室墳は出土遺物からすると、TK43併行期からTK209併行期にかけての短い時期に次々と築造され、また追葬が行われたものと考えられる。出土遺物は、須恵器、土師器のほか、耳環、ガラス玉、練玉などの装身具、刀、鏃、刀子、鎌、馬具などの鉄製品なども多く含まれている。

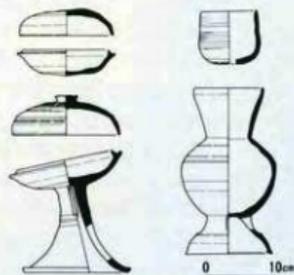
いずれの主体部も激しい盗掘を受けているために残存状況はよくないが、3号墳と4号墳の須恵器には、透かし孔の形状や技法に大きな差異が認められること、4号墳は小規模な無袖式石室を主体部に持つにも関わらず、馬具や非常に多くの鉄器を持つこと、4号墳副葬鏃は徳島県内のTK43併行期の副葬鏃とは異なる形式や組成を示すが、そこには瀬戸内地域の影響が濃厚にみられることなどが注目すべき点として挙げられる。(須崎)



1 出土遺物(鉄器)



2 出土遺物(馬具)



3 出土遺物(須恵器)

## やま だ 山 田 古 墳 群 A

所在地 板野郡上板町神宅字山田86

整理期間 1993年4月1日～1994年3月31日

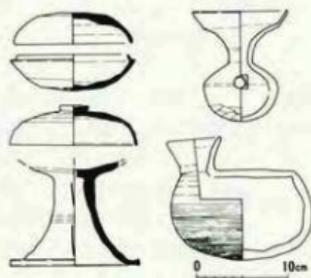
担当者 藤川

**整理概要** 本遺跡は、平成3年度に2,200㎡について発掘調査が実施された。発掘調査では古墳時代後期の横穴式石室を主体とする円墳3基、小竪穴式石室墓5基、中世墓4基を検出する成果が得られた。整理作業は、遺物の洗浄・注記、接合・復元の基礎整理及び遺物の実測・トレース・レイアウトなどの各作業を行った。また、出土した鉄器の保存処理、耳環のクリーニングも併せて行った。平成5年度は以上の作業と原稿の作成を終了し、平成6年度は報告書刊行の予定である。

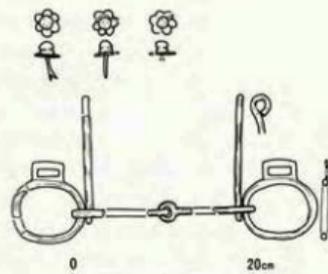
山田古墳群Aは、阿讃山麓から南へ延びる尾根上に位置する。尾根上には中央部に1号墳を中心に2号墳と小竪穴式石室が築かれ、南東斜面には3号墳及び中世墓が築かれている。1号墳は盗掘が著しく、横穴式石室の構造も明確にはしがたいが、須恵器や玉類と共に豊富な馬具が出土した。中には四国では2例目となる貝製雲珠が含まれている。小竪穴式石室墓5基は1号墳の墳丘上とその周囲に築かれ、1号墳への従属性を強く示している。

4基の中世墓のうち、1号墓では火葬を土坑内で行った後に埋葬を行い、方形の基壇状施設を設け、五輪塔を表象施設とする一連の過程が窺えた。その他の3基の中世墓においても火葬は行われていないものの、埋葬後に基壇状の石組の施設を設けている。4基とも年代決定の資料は少ないが、五輪塔の型式などから中世末の築造とみられる。

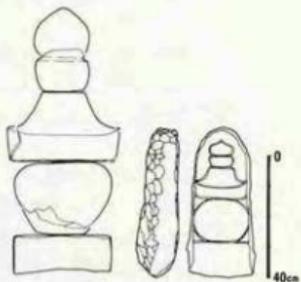
古墳時代の遺構は、6世紀後葉から7世紀初頭の築造である。そうした中で優位性の強い1号墳の存在は、同時期の他の群集墳と比較したとき、注目される。(藤川)



1 SM1001 出土須恵器



2 SM1001 出土馬具



3 ST2002 出土五輪塔・五輪板碑

## ふるしろ 古 城 遺 跡

**所在地** 板野郡板野町古城字楠ノ本134-2他

**整理期間** 1993年4月1日～1994年3月31日

**担当者** 須崎

**整理概要** 本遺跡は、平成4年度に古城遺跡(C地点)の残地部分840㎡を対象として発掘調査を行った。この調査によって、平成2年度の調査に引き続き、鎌倉時代を主体とする中世の遺構・遺物を確認することができた。

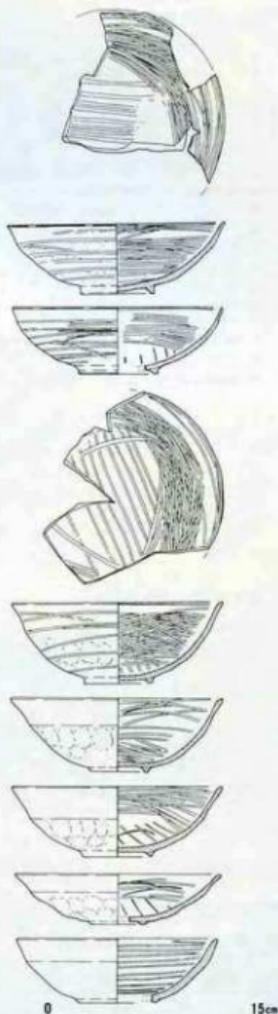
整理作業は、平成5年4月1日～平成6年3月31日の期間で行った。今年度は、図面・写真整理、遺物の復元、実測遺物の選別、台帳作成の基礎整理および遺物の実測作業、原稿の執筆を行った。また、これらの作業と併せて土壌墓出土の人骨鑑定を委託した。

本遺跡は、12世紀前半～13世紀前半頃にかけて存続した大溝により区画された中世の集落および中世の土壌墓群であり、集落の廃絶後、溝により区画された屋敷地を伴う居住区から墓域へと変化したことが明らかになった。建物群の廃絶後、墓域(小規模墓地)として変化したことは、当該期の集落の在り方や社会的背景を検討していく上で非常に興味深い。また短期間で集落が廃絶した理由としては、河川の氾濫によることが考えられる。

出土遺物については、主に12世紀～14世紀にかけての中世土器が量的にかなりのまとまりをもって出土している。特に土師質土器の杯・皿・瓦器碗等の供膳具についてはこれまでの徳島県内で調査された中世遺跡のなかでは当該期の土器様相を解明して行く上で良好な一資料となろう。

報告書は平成6年度刊行の予定である。

(須崎)



1 出土遺物(瓦器碗)

## IV 埋蔵文化財センターの活動

### (1) 職員の対外活動

No	期 間	人 員	内 容
1	5. 4～6. 3	係長 1	国立歴史民俗博物館資料調査委員委嘱
2	5. 4～6. 3	係長 1	国立二十一世紀館ビデオソフト製作協力
3	5. 5. 3	係長 1 研究員 2	日本考古学協会発表（東京都）
4	5. 5. 5	係長 1	阿波こくふ街角博物館開館 5 周年記念講演会講演（徳島市）
5	5. 5. 20～5. 21	係長 1	中国 四国ブロック主幹課長会議出席（徳島市）
6	5. 6. 14～6. 15	局長 課長 1 係長 1	全国埋蔵文化財法人連絡協議会総会出席（徳島市）
7	5. 6. 28	研究員 1	徳島市文化財保護会連絡協議会総会講演（徳島市）
8	5. 7. 8～7. 9	技術主任 研究員 2	四国埋蔵文化財法人実務担当者会議出席（坂出市）
9	5. 7. 20	係長 1	NHK徳島放送局スタジオ出演（埋蔵文化財資料解説）
10	5. 7. 22	係長 1	ロータリークラブ卓話（徳島市）
11	5. 8. 7	係長 1	財団法人黒川古文化研究所夏期講義講演（西宮市）
12	5. 8. 31	研究員 1	NHK徳島放送局スタジオ出演（埋蔵文化財資料解説）
13	5. 10. 8	研究員 2	全国埋蔵文化財法人連絡協議会コンピュータ等研究委員会中国 四国九州ブロック地区委員会出席（広島市）
14	5. 10. 21～10. 22	研究員 2 主事	全国埋蔵文化財法人連絡協議会研究会出席（京都市）
15	5. 10. 23～10. 24	研究員 1	中国四国中土石器研究会発表（広島市）
16	5. 10. 24～10. 31	係長 1 研究員 3	アステイトくしまオープンニングイベント「阿波の玉手箱」体験学習指導（徳島市）
17	5. 11. 5～11. 31	研究員 4	国立坂野高等学校外部講師招へい事業講師
18	5. 11. 14	研究員 2	文部省重点領域研究エクスカッション現地説明（徳島市）
19	5. 11. 18～11. 19	課長 1 技術主任 研究員 1	全国埋蔵文化財法人連絡協議会中国・四国・九州ブロック会議出席（広島市）
20	5. 11. 23	係長 1 研究員 5	建設省徳島工事事務所主催「四国のまち」ハイキング現地説明（徳島市）
21	5. 11. 25～11. 26	係長 1 主事 研究員 1	四国埋蔵文化財法人実務担当者会議出席（坂出市）
22	6. 1. 29	研究員 1	瀬戸内海考古学研究会発表（松山市）
23	6. 2. 19	係長 1	県教育委員会主催埋蔵文化財シンポジウム発表（徳島市）
24	6. 2. 22	係長 1	四国放送トーク番組出演収録（徳島文理大学石野博信氏との対談）

### (2) 現地説明会の開催等

No	道 跡 名	説 明 内 容	期 日	参加人数
1	矢野道跡	「四国の道」ハイキングに伴う道跡説明	5. 11. 23	370名
2	矢野道跡	5 年度調査成果の公表	6. 1. 22	200名

### (3) センターの見学

No	日 時	機 関 名 等
1	5. 8. 30	海部郡日和佐中学校
2	5. 11. 14	中華人民共和国 遼寧大学 除秉堪教授 遼寧省博物館 包恩梨副研究員
3	5. 11. 16	勝浦郡勝浦中学校
4	6. 1. 12	徳島精神保健センター デイ・ケア
5	6. 2. 23	坂野郡坂野西小学校

### (4) 資料の貸出

本年度行った資料の貸出は以下である。

No	貸出先機関等	目 的	貸 出 資 料	期 間
1	株式会社 京都科学	日本考古学協会発表要旨広告掲載	矢野銅鐸刺き取り写真	
2	佐伯建設工業株式会社	社内報掲載	矢野銅鐸埋納状況写真	
3	県総務部秘書広報課	広報誌「徳島創世記」掲載	矢野銅鐸写真	
4	新人物往来社	「別冊歴史読本」掲載	矢野銅鐸関連写真一式	

5	石井中学校	教材	椎ケ丸～芝生遺跡出土旧石器	5. 6 11～6 25
6	朝日新聞社出版局	『日本神話の考古学』 掲載	矢野銅鐸埋納状況写真	
7	株式会社 パスコ	40周年記念技術発表会 展示	矢野銅鐸写真	
8	県観光物産課	アスティとくしまオー ブニングイベント展示	菖蒲谷西山A遺跡出土人物埴輪・蓮華池 遺跡(Ⅰ)出土家形埴輪・盾形埴輪・黒 谷川宮ノ前遺跡水田跡写真・矢野銅鐸関 連写真一式	5. 10. 23～5 11. 1
9	徳島市教育委員会	埋蔵文化財資料展展示	椎ケ丸～芝生遺跡出土尖頭器・蓮華谷古 墳群(Ⅱ)出土鉄剣2・鉄鎌4・蓮華池 遺跡(Ⅰ)出土盾形埴輪	6 1. 18～2 28
10	県教育委員会文化課	埋蔵文化財資料展展示	黒谷川宮ノ前遺跡水田跡写真	

### (5) 刊行物

『矢野銅鐸』5年6月

『徳島県埋蔵文化財センター年報Vol.4』5年7月

『四国縦貫自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告2 前田遺跡』5年10月

徳島県埋蔵文化財センター研究紀要『真朱』第2号 5年11月

『四国縦貫自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告3 桜ノ岡遺跡(Ⅰ)・桜ノ岡遺跡(Ⅲ)』  
5年12月

『四国縦貫自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告4 蓮華谷古墳群(Ⅱ)・蓮華池遺跡  
(Ⅰ)』6年3月

『四国縦貫自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告5 日吉谷遺跡』6年3月

『四国縦貫自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告6 北原～大法寺遺跡・十楽寺遺跡・椎  
ケ丸～芝生遺跡』6年3月



現地見学会風景



現地説明会風景



センター見学風景



外部講師招へい事業風景

## V 受 贈 図 書

書 名	寄 贈 者 等 名
<b>北 海 道</b>	
滝川道跡群Ⅲ (財)北海道埋蔵文化財センター調査報告書 第80集	(財)北海道埋蔵文化財センター
芽室町北明1道跡(2) 音更町西昭和2道跡 池田町十日5道跡 (財)北海道埋蔵文化財センター調査報告書 第82集	〃
美沢川流域の道跡群ⅩⅦ (財)北海道埋蔵文化財センター調査報告書 第83集	〃
前館市中野A道跡(Ⅱ) (財)北海道埋蔵文化財センター調査報告書 第84集	〃
調査年報5 平成4年度 手宮公園下道跡 小樽市埋蔵文化財発掘調査報告書 第8編	小樽市教育委員会
<b>青 森 県</b>	
埋文あおもり 第12号	青森県埋蔵文化財調査センター
<b>岩 手 県</b>	
上鬼柳1道跡発掘調査報告書	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
東北横断自動車道秋田線建設関連道跡発掘調査 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財発掘調査報告書 第179集	〃
兵庫館跡 梅ノ木台地Ⅱ道跡発掘調査報告書 東北横断自動車道秋田線建設関連道跡発掘調査 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財発掘調査報告書 第180集	〃
上反町道跡発掘調査報告書 東北横断自動車道秋田線建設関連道跡発掘調査 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財発掘調査報告書 第181集	〃
法皇野1道跡 中屋道跡発掘調査報告書 東北横断自動車道秋田線建設関連道跡発掘調査 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財発掘調査報告書 第182集	〃
八幡野Ⅱ道跡発掘調査報告書 東北横断自動車道秋田線建設関連道跡発掘調査 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財発掘調査報告書 第183集	〃
泉原道跡発掘調査報告書 一関遊水地事業関連道跡発掘調査 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財発掘調査報告書 第184集	〃
仁沢瀬道跡群発掘調査報告書 国道46号稲荷前バイパス関連道跡発掘調査 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財発掘調査報告書 第185集	〃
湾台Ⅱ道跡 湾台Ⅲ道跡発掘調査報告書 三陸縦貫自動車道(山田道路)関連道跡発掘調査 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財発掘調査報告書 第186集	〃
館Ⅳ道跡発掘調査報告書 国道107号新環状橋整備関連道跡発掘調査 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財発掘調査報告書 第187集	〃
丸木橋道跡発掘調査報告書 国道340号改良工事関連道跡発掘調査 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財発掘調査報告書 第189集	〃
明通道跡発掘調査報告書 国道281号道路改良工事関連道跡発掘調査 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財発掘調査報告書 第190集	〃
川井館跡発掘調査報告書 国道281号道路改良工事関連道跡発掘調査 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財発掘調査報告書 第191集	〃
人当1道跡発掘調査報告書 北本内ダム建設工事関連道跡発掘調査 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財発掘調査報告書 第193集	〃
上八木田Ⅱ道跡発掘調査報告書 新盛岡競馬場建設関連道跡発掘調査 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財発掘調査報告書 第194集	〃
岩手県埋蔵文化財発掘調査略報(平成4年度分) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財発掘調査報告書 第195集	〃
紀要集 わらびて 岩手県立埋蔵文化財センター所報 第61～62号	岩手県立埋蔵文化財センター

書名	寄贈者等名
<b>秋田県</b>	
秋田県埋蔵文化財センター年報11	秋田県埋蔵文化財センター
秋田県埋蔵文化財センター研究紀要 第8号	〃
弘田郷跡～第92 93次調査概要～	〃
秋田県文化財調査報告書 第238集	〃
弘田郷跡調査事務所年報1992	〃
<b>福島県</b>	
<b>台畑道跡</b>	(財)福島板橋公社文化財調査室
確認調査第1, 2次発掘調査報告書 福島市埋蔵文化財報告書 第38集	〃
岩崎町道跡-古代集落跡の調査-	〃
国道114号幅国道改良工事関連埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告	〃
福島市埋蔵文化財報告書 第47集	〃
平成3年度道跡詳細分布調査報告書 福島市埋蔵文化財報告書 第48集	〃
赤沢口道跡, 清水道跡	〃
摺上川ダム埋蔵文化財発掘調査報告1	〃
福島市埋蔵文化財報告書 第49集	〃
摺上川ダム埋蔵文化財発掘調査概要1 福島市埋蔵文化財報告書 第50集	〃
月崎A道跡 (第5次調査)	〃
飯坂南部土地区画整理事業関連道跡調査報告Ⅱ	〃
福島市埋蔵文化財報告書 第51集	〃
敷ヶ森道跡-縄文時代集落跡の調査- 福島市埋蔵文化財報告書 第52集	〃
陸塚道跡-一般国道13号福島西道路関連道跡発掘調査報告	〃
福島市埋蔵文化財報告書 第53集	〃
前原道跡 中島館跡 吹込道跡・下ノ平道跡	〃
摺上川ダム埋蔵文化財発掘調査報告2 福島市埋蔵文化財報告書 第54集	〃
摺上川ダム埋蔵文化財発掘調査概要Ⅱ 福島市埋蔵文化財報告書 第55集	〃
五郎兵衛館跡 福島市埋蔵文化財報告書 第56集	〃
大島城跡 筋ノ山地区上水道配水池築造関連埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告	〃
福島市埋蔵文化財報告書 第57集	〃
仲作田道跡, 宮林道跡, 飛平塚, 仲ノ縄B道跡, 仲ノ縄E道跡	(財)福島文化センター
東北横断自動車道跡調査報告19 福島県文化財調査報告書 第290集	〃
小滝道跡, 滝道跡, 鴨ヶ館跡 (第1次調査)	〃
東北横断自動車道跡調査報告21 福島県文化財調査報告書 第292集	〃
作田B道跡, 糠内道跡	〃
東北横断自動車道跡調査報告22 福島県文化財調査報告書 第293集	〃
本飯豊道跡 (第1次)	〃
東北横断自動車道跡調査報告24 福島県文化財調査報告書 第295集	〃
安積野のバイオニアたち	(財)都市埋蔵文化財発掘調査事業団
館崎横穴群～古代墓跡の調査～ いわき市埋蔵文化財調査報告 第23冊	(財)いわき市教育文化事業団
千代館横穴群～古代墓跡の研究～ いわき市埋蔵文化財調査報告 第32冊	〃
久世原館 番匠地道跡 第1～IV篇 いわき市埋蔵文化財調査報告 第33冊	〃
いわき市教育文化事業団 年報3 平成3年度	〃
いわき市教育文化事業団 研究紀要 第4号 1992	〃
根岸道跡 平成4年度範囲確認発掘調査概要	いわき市教育委員会
<b>茨城県</b>	
<b>輕山城跡</b>	茨城県教育財団埋蔵文化財部
主要地方道茨城県烏輪道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書	〃
茨城県教育財団文化財調査報告 第78集	〃
中ノ宮道跡 小山道跡 諏訪前道跡 高原古墳群 沢橋道跡 高原道跡 北原敷道跡	〃
一般国道6号東水戸道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書	〃
茨城県教育財団文化財調査報告 第79集	〃
原田北道跡1・原田西道跡	〃
土浦北工業団地造成地内埋蔵文化財調査報告書	〃
茨城県教育財団文化財調査報告 第80集	〃
ヤツノ上道跡	〃
牛久北部特定土地区画整備事業地内埋蔵文化財調査報告書(1)	〃
茨城県教育財団文化財調査報告 第81集	〃
白石道跡	〃
水戸浄水場(仮称)予定地内埋蔵文化財調査報告書	〃
茨城県教育財団文化財調査報告 第82集	〃
原口道跡 北前道跡	〃
茨城県自然博物館(仮称)建設用地内埋蔵文化財調査報告書I	〃



書 名	寄 贈 者 等 名	
関越自動車道（上越線）地域埋蔵文化財発掘調査報告書 第19集 （財）群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告 第155集	（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団	
元郷社寺田遺跡1 一般河川牛池川河川改修工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第1集 （財）群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告 第156集		
埋文群馬No.15、16合併号		〃
埋文群馬No.17、18合併号		〃
埋文群馬No.19、20合併号		〃
遺跡に学ぶ第1 2号		〃
年報12		〃
岩宿時代通信 Origin No.3～6		笠懸町岩宿文化資料館
第1回岩宿フォーラム		〃
シンポジウム「環状ブロック群」岩宿時代の集落の実態にせまる（資料集）		〃
第5回企画展 群馬の岩宿時代		〃
笠懸町埋蔵文化財調査報告書 平成2年度埋蔵文化財緊急発掘調査報告書一 笠懸町埋蔵文化財調査報告 第11集		笠懸町教育委員会
奥平遺跡群発掘調査報告書 第27集		吉井町教育委員会
仲突発掘株式会社によるゴルフ場開発に伴う発掘調査 人野遺跡群山本遺跡発掘調査報告書 宅地造成事業に伴う発掘調査 多比良遺跡発掘調査報告書		〃
国分埜田遺跡 毎日新聞北関東コア建設に係る埋蔵文化財発掘調査 群馬町埋蔵文化財調査報告 第35集		群馬町教育委員会
町内遺跡 群馬町埋蔵文化財調査報告 第36集	〃	
<b>埼 玉 県</b>		
浦和市 西本竹遺跡 芝川見沼第1調節池関係埋蔵文化財発掘調査報告 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第122集	（財）埼玉県埋蔵文化財調査事業団	
鴻巣市 新屋敷遺跡-B地区 埼玉県鴻巣保健所関係埋蔵文化財発掘調査報告 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第123集	〃	
桶川市 狐塚遺跡 県営桶川田谷谷田地関係埋蔵文化財発掘調査報告 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第124集	〃	
中耕遺跡 第1分冊、第2分冊 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第125集	〃	
大里郡岡部町 原ヶ谷Ⅱ 滝下遺跡 一般国道17号深谷バイパス関係埋蔵文化財発掘調査報告一Ⅳ一 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第127集	〃	
川本町 白草遺跡Ⅰ 北條場遺跡 川本工業団地関係埋蔵文化財発掘調査報告一Ⅲ一 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第129集	〃	
川本町 西反歩遺跡 川本工業団地関係埋蔵文化財発掘調査報告一Ⅳ一 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第130集	〃	
日高市 谷津 二反田 下向山遺跡 首都圏中央連絡自動車道関係埋蔵文化財発掘調査報告一Ⅰ一 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第131集	〃	
年報一12一平成3年度	〃	
年報一13一平成4年度	〃	
研究紀要 第9号	〃	
深谷町 ウツギ内 砂田 柳町遺跡 一般国道17号上武道路関係埋蔵文化財発掘調査報告一Ⅰ一 埋文さいたま 第11～15号	埼玉県立埋蔵文化財センター	
埼玉県立埋蔵文化財センター出土品図録 縄文の祈りと造形	〃	
埼玉県立埋蔵文化財センター年報2	〃	
考古百科①～⑩	〃	
埼玉の窯業～瓦とうつわ その生産と流通～ 資料ガイドブック9	埼玉県歴史資料館	
歴史資料館と宮谷館跡	〃	
館報 第14号	〃	
也加多 第29号	〃	
研究紀要 第15号	〃	
第4回テーマ展 写真に見る行田のうつつかり2	行田市郷土博物館	
行田市郷土博物館収蔵資料目録考古Ⅰ	〃	
ミュージアム行田No.11	〃	
久保1号瓦窯跡 鳩山町埋蔵文化財調査報告 第14集	鳩山町教育委員会	
埼玉県比企郡鳩山町 大竹 日陰山遺跡 鳩山町埋蔵文化財調査報告 第15集	〃	

